

2) 植物群落

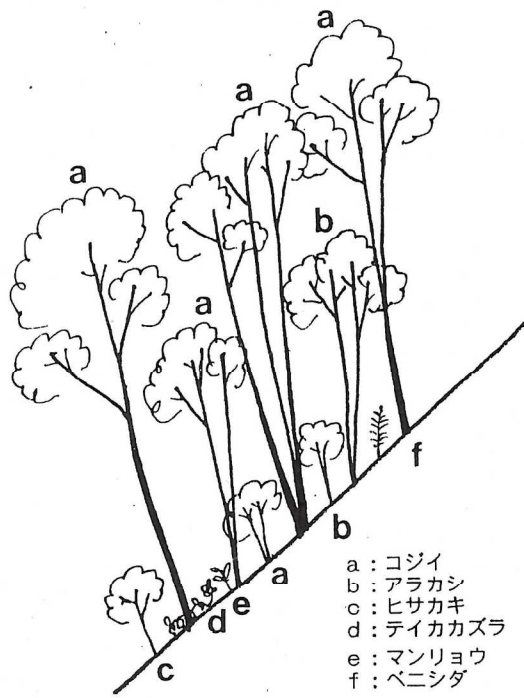
埋め立て前の田代地区の植生・土地利用は、沢の合流部（盆地中央部）の低地を中心に数軒の人家および耕作地（水田、畑、果樹園、茶畑、一部耕作放棄地）、その周辺山地の樹林域とからなっていました（図 4.1.3）。斜面下部の土壌条件の良い部分（褐色森林土壌）はスギ-ヒノキ植林（図 4.1.1.2）が大半を占め、急傾斜地や尾根部など植林地としての条件が悪いところには常緑や落葉の広葉樹林（コジイ（ツブラジイ）、アラカシ、コナラ、アベマキなど）が比較的広範囲に分布していました（図 4.1.1.1）。また 人家周辺や斜面下部には竹林（マダケ-モウソウチク林）が見られました（図 4.1.1.2）。竹林は一時期、手入れの行き届かないスギ植林内にも侵入がみられ、その面積は拡大傾向にありましたが、現在は一部の竹林では枯死が進み、落ち着いています。このほか、アカマツ林（図 4.1.1.2）については松くい虫の影響などにより、調査当初の 1996 年段階で分布面積は減少傾向にあり、まとまった林は殆ど見られませんでした。草本群落では沢沿いや水路沿いには面積的には少ないですがカサスゲ群落、ツルヨシ群落、セキショウ群落などの自然植生に近い湿生草本群落が見られていました（図 4.1.1.3）。

埋め立て後は、低地に見られた湿生草本群落と裾部の樹林（主にスギ-ヒノキ植林）が消失し、広大な埋立地（大半が裸地、一部草地）とその周辺の林縁部（伐採跡地群落）が出現しました（図 4.1.3、写真 4.1.3）。ただし、環境保全のために保全した沢部に分布する樹林（スギ-ヒノキ植林やコジイ林、コナラ林など）や湿生草地（カサスゲ群落など）は、現在も残存しています。

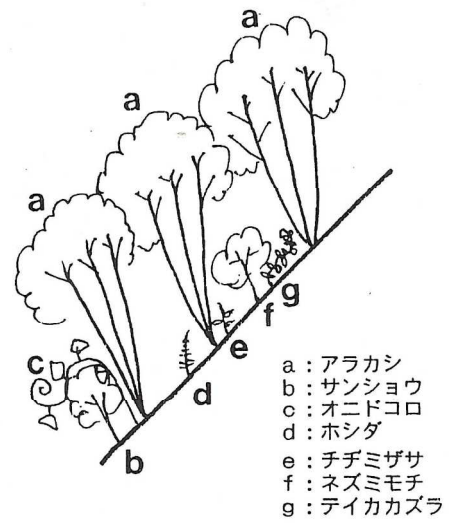
なお、埋め立て後の周辺樹林の典型例として、尾根部の常緑広葉樹林（コジイ林、写真 4.1.3）について胸高直径⁷階別本数のグラフを図 4.1.2 に示しました。コジイ林では優占種のコジイが細い個体（若齢個体）から太い個体（壮齢個体）まで生育しており、この地域の自然植生（カナメモチ-コジイ群集とされている）として安定していくものと推定されます。

このほか当該地点では土壌調査も行いましたが、尾根部では、表土層が薄く、乾性で酸性の強い貧栄養な土壌（乾性褐色森林土壌や暗色赤色土壌）であることが示されました（資料編：土壌断面図参照）。すなわち、当該地の自然は一度改変されると復元が難しい立地であることが示唆されます。

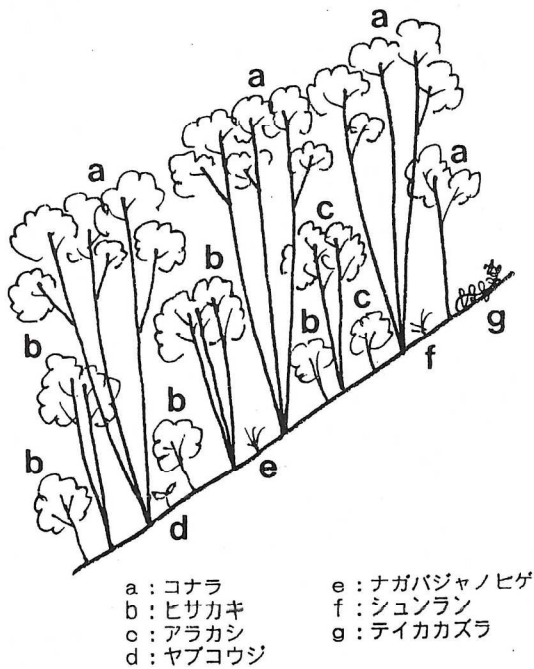
⁷ 胸高直径：立木の胸の高さ（1.2m）の直径（cm）



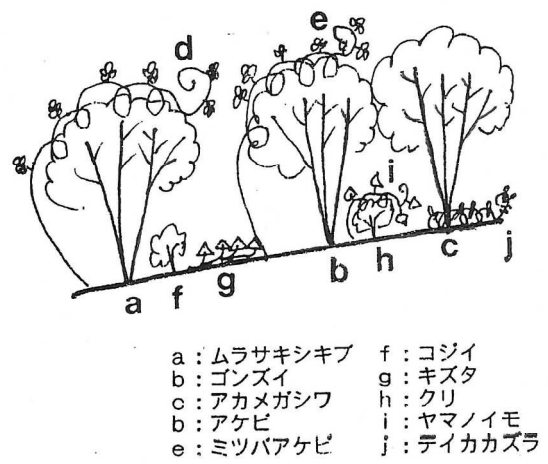
●コジイ群落



●アラカシ低木群落

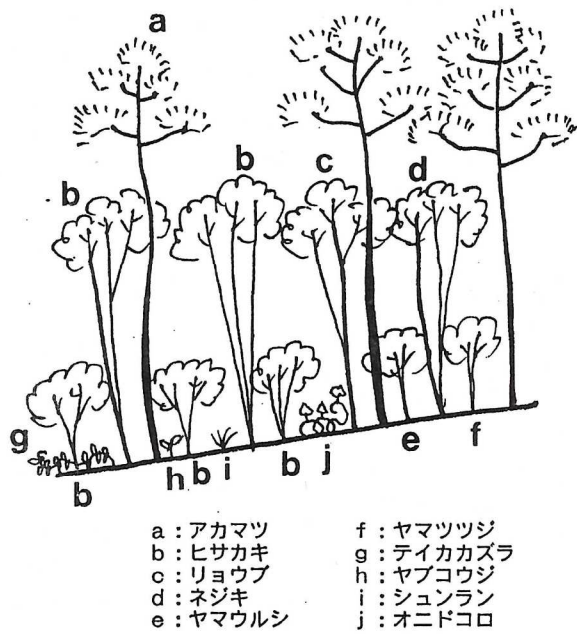


●コナラ群落

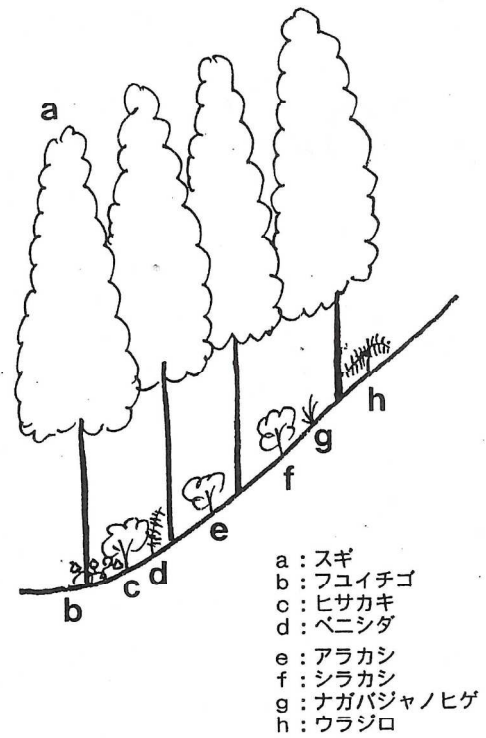


●クサギーアカメガシワ群落

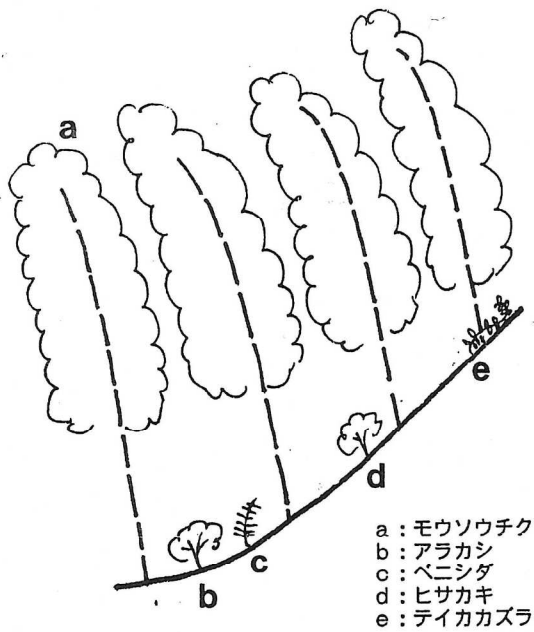
図 4.1.1.1 主な植物群落の模式図



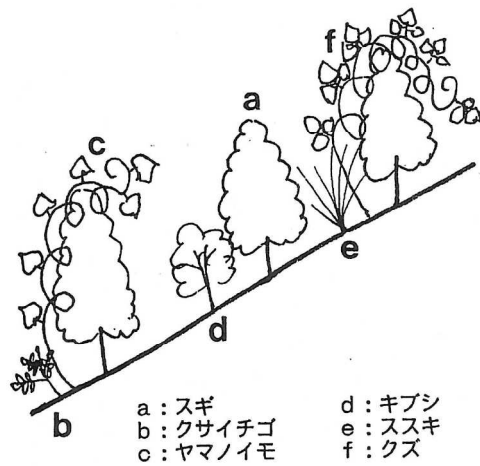
●アカマツ群落



●スギ植林



●竹林 (モウソウチク林)



●スギ新植地

図 4.1.1.2 主な植物群落の模式図

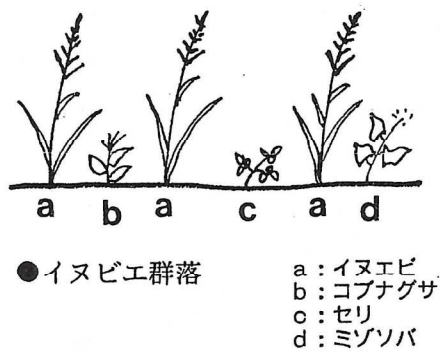
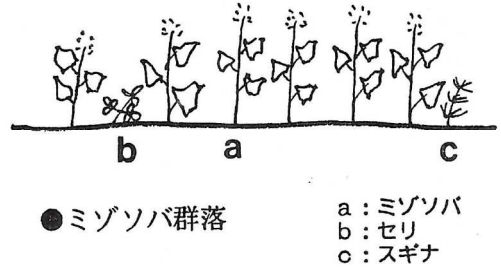
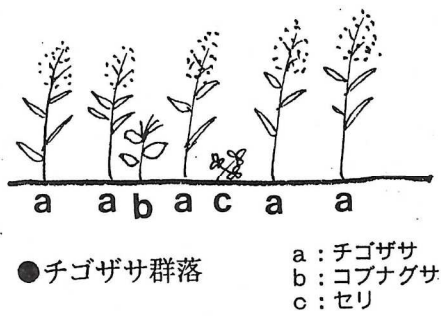
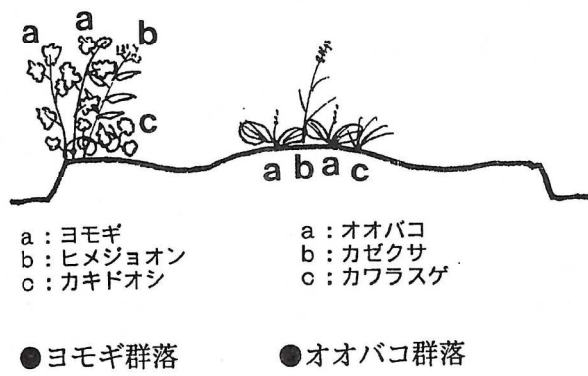
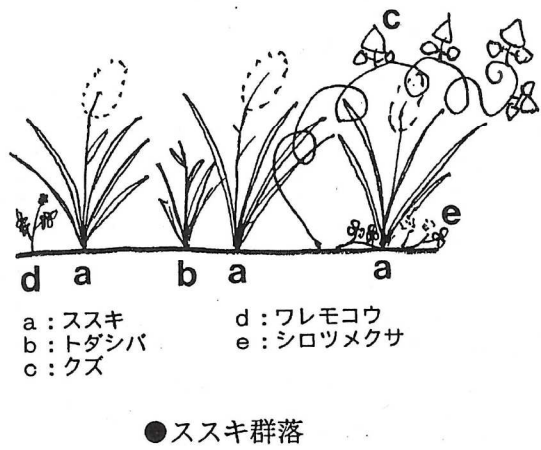
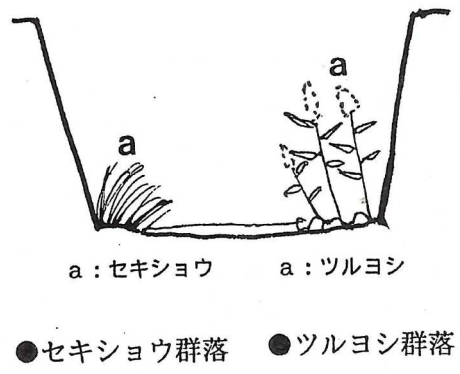
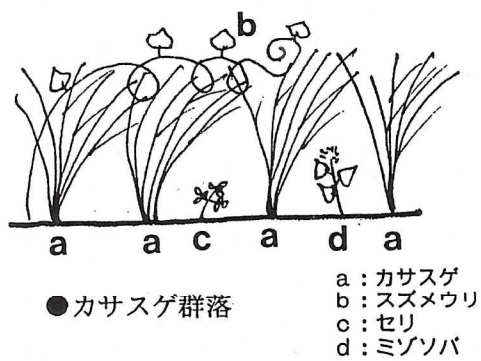


図 4. 1. 1. 3 主な植物群落の模式図

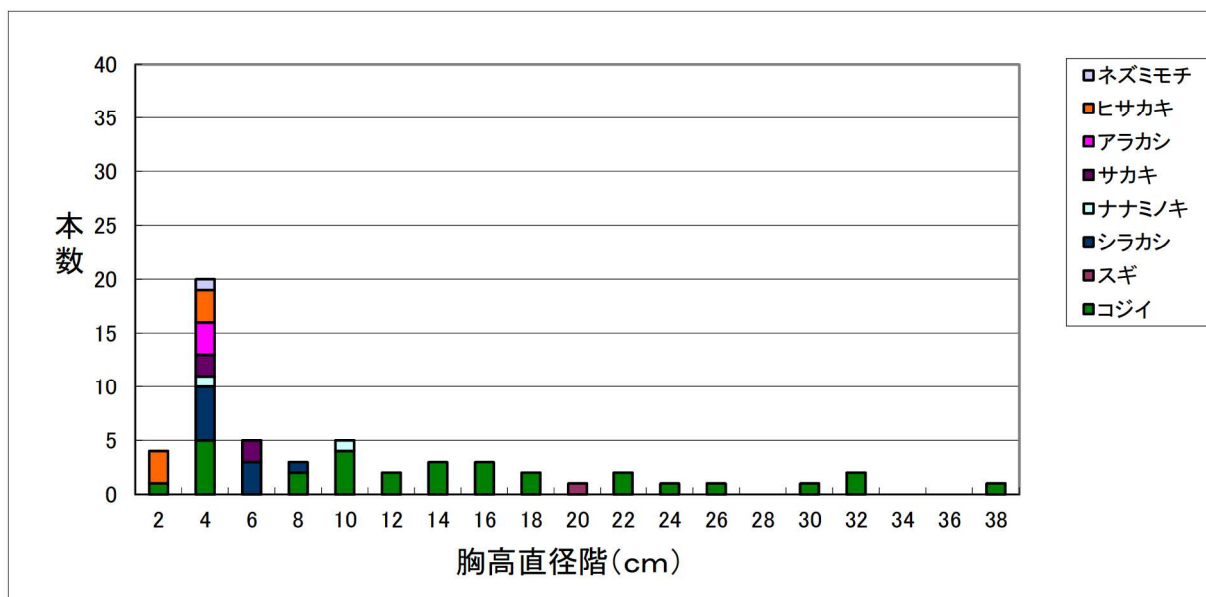


図 4.1.2 常緑広葉樹林（コジイ林）の胸高直径階別本数



写真 4.1.3 田代の景観

